



令和3年NO.07

ずっとずっと温めてきた「きかくの企画」、  
ようやく真っ白なスタートラインを  
引いたところです！  
クリエイターとしてできる  
「よりよく」を  
さらに大きく膨らませて  
羽ばたきます！！



## オトナの「生まれて初めて」

数年前、知人から久しぶりに連絡がありました。ある企業に勤めるその知人は事務系の職務に就いたのですが、突然上司から集客のための販促プランを従業員全員に求められたとのこと。グループ別で企画を立ててプレゼンをする事になったと！(元々こういうオモ

口い企業さんなのだそうです) さあ企画なんてしたこともないわたしの知人、企画書って？プレゼンって？どうやるのか何から手を付けていいのか分からなくなると、わたしの元に相談があったのでした。

後日彼女とランチしながら、そもそも企画ってどういうものか、とか、企画書を作る手順とか、プレゼンに必要なことは何か、みたいな抑えるべきポイントをざっくり説明しました。彼女はわたしの例え話にうんうんとうなづき、「自分の業種の場合ならこの部分は〇〇に当たるのね」とおおよその感じをつかみ取って、すっきりした表情で帰っていきました。

…そうか、日々企画や表現の仕事をしている以外の人は、そういうことを学ぶ機会はないよなあ。

そのことは、ずっとわたしの頭の片隅に残っていました。そしてまた、全然別の販売員をしている知人から、商品の仕入れに関して若い世代の意見を提出するこ

とになり、企画書の書き方を教えてほしいと相談を受けたのです。

これはもう、こんなふうにおとなになっていきなり企画やプレゼンをする立場に立たされてしまった人が世の中には山ほどいるってことやよな…

## すべての人に「伝え方」を

それからずっと考えていたのです。仕事の場だけでなく、友人や家族間でも自分の気持ちや考えがうまく伝わらなかつたり、それが元で誤解が生じたり、コミュニケーションが苦手で困っている人って結構いるような気がします。

そもそも、伝えるとか表現するとか、コミュニケーションって人間が社会生活する上でとても大事なことに、わたしたち日本人は学校教育でそれを学ぶ機会がとて少ないと感じます。自分の意見や思ったことを人前で発表する機会も少ないし、それは同時に他人の意見を聞く、自分と違う考え方の人がいることを認めるといふ機会も少ないということになります。そんな状態で大きくなって、学校や職場での人間関係に悩むのはある意味

当然の結果なのかも知れません。できるならば子供時代に、自分の気持ちや感じたことを人に伝える機会を、表現することの楽しさ、認められた時の嬉しさを感じてもらえる場を作れないだろうか、そしてそれは、表現のプロであるわたしたちクリエイターの使命ではないか。子供たちのために、そして日本の未来のためにやらねばならない、強くそう感じたのです。

どういう形がいいだろう、いろんな方にお話ししてご意見をいただき、セミナーやワークショップという形でスタートしようと考えました。

個人でもグループでも、親子で参加してもらおうのもいいかも知れません。小学生向け、中学生、そしてもちろん、オトナになって伝え方を学びたい、練習したい、そう思っている方々や、企業での研修などにも応用できるプログラムも考案中です。

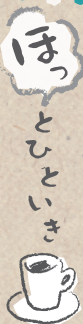
人は皆違うし完璧ではないのです。すべてを分かり合うのは難しいことです。だけど、相手がどう感じるか、自分ならどう言われれば心が動くか、想像することはできると思うのです。伝わる伝え方は、相手に自分をより重ねることから始まるのではないのでしょうか。

## クリエイターの視点を取り入れる

そしてもう一つ、ゆくゆくはこのワークショップに、いろんなクリエイターに講師として立つてもらいたいと考えています。デザイナー、イラストレーター、コピーライター、フォトグラファー、映像や音楽に携わる方々…それぞれの仕事を通じて「表現」を体験する場を作ること、子供たちには点数化できない得意分野を見つけてあげるきっかけに、オトナには表現力を養うことから生活や仕事における課題解決につながるものになりたいと思っています。日本の教育を、未来を、少しでも「よりよく」変えていきたい、それがわたしの目標です。(Part2へ続く)

## とは言え企画なんて…

そう、企画ってなんだか奇想天外なアイデアを考え出す人にしかできないと思われがちです。でも実は企画って、日常生活にも取り入れることができる身近なものもあるんです。例えば、家族の予定がまちまちでご飯の支度の段取りが狂いがちで困っているお母さんのために、玄関にホワイトボードを置いて家を出る前にそれぞれ帰宅時間を書くようにしよう！なんてのも企画です。



どうでしょう、こんな感じならできそうだと思いますか？企画とは、現状こうです→こういう困りごとがあります→こうなるといいよね→それを実現するためにこうしたらどう？という「よりよく」を考えることなのです。それは困っている「誰か」の問題を解決することであり、「誰か」の問題に気づき「感じる」思いやりから生まれるのです。さあ、好奇心を持って見渡してみましよう！あなたの周りに企画の種は転がっていませんか？

デザインと  
イラストと  
きかく

小路好美

583-0992 大阪府南河内郡太子町山田 2712  
mobile 080-3816-3030  
tel/fax 0721-98-4434  
e-mail y\_shouji1214@yahoo.co.jp

制作ルーム /

585-0011 大阪府南河内郡河内町寺田 148-2  
<https://www.facebook.com/y.shouji1214>



令和3年NO.08



(Part1の続き)  
 それでは「きかくの企画」、具体的に解説します。

**企画概要**

- 「きかく」を通して①感じる②考える③伝えるを軸に、気持ちの伝え方をクリエイターと一緒に探していくプログラム。
- 企画意図・目的**
- 自分の考えやアイデアを伝える形で表現し、コミュニケーション力や表現力の向上を計る
- 発表はできる限りシェアして他の人の発想や考えに触れる機会を持つ
- 自分と違う意見を認め、他人を尊重する心を養う
- 「できたー」の喜びと、最後までやり通すことでの自信を得る
- 好奇心を養い視野を広げ、新しい自分を見つめる
- こんな人にぜひ!**
- 伝えるスキルを身につけたい人、文章や企画が苦手な人

子供	学生	主婦	社会人
<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達と話すのが苦手</li> <li>・作文や感想文が苦手</li> <li>・授業での発表が苦手</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・履歴書やレポートが苦になる</li> <li>・目上の人へのメール作成が苦手</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族への要望が伝わらない</li> <li>・子供とのコミュニケーションが難しい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企画や交渉が苦手</li> <li>・社内でのコミュニケーションが困難</li> <li>・思いの共有が難しい</li> </ul>

必要な人に必要な規模・形でのプログラム

「企画」とは「よりよく」を考えること。「もっとこうなったらいいのにな」「こうすれば分かりやすいのにな」「こういうのがあれば便利だね!」な、**みんながハッピーになるために「感じる」**ことから始めましょう!!

子供向けワークショップの例

「きかくしよ」を作って「ふれぜん」してみよう!!

- ・小学校中～高学年
- ・全4回
- ①きかくの種を集める
- ②きかく案決定、きかくしよ作り
- ③きかくしよの完成、ふれぜん案作り
- ④ふれぜん会

実際に企画が通るかどうかもまずは考える習慣を!!

4. ふれぜん発表 みんなの発表を聞こう!

1. Aくんの現状の問題

もっとおごごかいほしいなあ  
 Aくんが「感じた」こと  
 新しいゲームしたいなあ

2. きかく案決定、作成にかかります!

おごごかいUPプロジェクト 決定!!

シートに記入していきます  
 \*実際のシートはもう少し段階を分けます

・きかくのタイトルは?  
**おごごかいUPプロジェクト**

・だれのためのきかく?  
**ほく** 他人のためでも自分のためでもいい

・今のままでは困ること  
**すぎなゲームが買えない** 問題提起

・きかくのゴールは?  
**おごごかいを〇〇円上げてもら** なるべく具体的に

・ふれぜんのあいては?  
**おかあさん** 重要 交渉相手をリサーチする。タイプによってアプローチを変える。そして相手にとってのメリット(価値)を考え提示する。

・さくせんを考える  
**あいてが「それいいね!」と言ってくれるにはどうすればいい?**

3. きかくしよ完成! ふれぜん方法を考えます

スピーチ紙しばい手紙  
 ロジカルタイプ 情にのりタイプ  
 受け取り方も価値感もちがう

※相手の心を動かせるかどうかはここにかかっています!

だれもが「企画」を持っている  
 企画を出してと言われてオトナの反応に多いのが、「アイデアがない」「何も考えつかん」。企画ってやっぱり難しく考えるとアカン!なイメージが染み付いていて、まずはそれを壊すところから始めた方がよさそうです。企画のゴールは人を「動かす」こと。心を動かし、行動させる。では企画のスタートはなんでしょう?それは「感じる」こと。上の子供向けの例のように、自分のための企画でもいい、

まずは感じること。だれもが持つ疑問や不満や不便に企画の種はあるのです。そして自分のための企画は相手にとってのメリットもないといけません。自分の利益だけではだめ。「よりよく」は、だれかが我慢して成り立つものではなく、みんながハッピーになるものであるべきだと思います。そしてこの子供向けワークショップ、実は企業さんにも応用できます。商品やサービスの値上げをお考えの経営者さん、一度あてはめてみてください!

**デザインとイラスト きかく**  
 小路好美  
 583-0992 大阪府南河内郡太字町山田 2712  
 mobile 080-3816-3030  
 tel,fax 0721-98-4434  
 e-mail y\_shouji1214@yahoo.co.jp  
 制作ルーム/  
 585-0011 大阪府南河内郡河内町寺田 148-2  
 https://www.facebook.com/y.shouji1214